

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100433		
法人名	(株)メディカメント		
事業所名	グループホームいやしの家備前2		
所在地	岡山県備前市伊部323-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 17 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3371100433-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 2 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『備前焼の里』と言われている静かで落ち着いた環境の中、天気の良い朝は日光浴を兼ねて玄関のベンチで歌を歌ったり、体操をしたり、花壇の花の水やり、玄関掃除など一緒にしながら一日がはじまります。入居者様はそれぞれが出来る事をして頂きながら、皆さんと一緒に楽しみながら穏やかに過ごして頂けるように職員がお手伝いをさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前方に山陽新幹線が走るのが見え、周囲の田んぼからは雲雀のさえずりが聞こえる場所に事業所は位置している。日当たりの良い玄関先では利用者が日光浴や体操をして過ごしている。優れている点として次の二つが挙げられる。一つは、ケア記録アプリを導入し、端末で管理することで職員の業務負担が軽減していること。また、アプリは薬局ともつながっている。二つ目は、食事は職員が3食手作りし、一緒に食べながら利用者の状況を細やかに把握していることがある。工夫点としては次の三つがある。まず、利用者に対する職員の声かけが穏やかで丁寧なこと。次に、利用者の食事形態を職員の誰もが即座に把握できるよう、名札に書いて配膳時に活かしていること。第三にはプライバシーに配慮しながら、利用者の入浴予定を分かりやすく表示していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームやフロア内に理念を掲げ、カンファレンスでは理念を共有し実践につなげている。	洗面所・廊下・スタッフルーム等に理念を掲示するとともに、カンファレンスの時に毎回議事録に表示している理念を唱和することで共有している。気になる点については、日々のケアの中で職員同士も声をかけ合って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナは5類感染症へ移行はしているが、地域の行事やボランティア方々との交流は行っていない。	コロナ禍以前は、絵手紙やコーラスのボランティア・中学生の職場体験を受け入れたり、地域の祭りにも参加したりしていた。現在は、絵手紙サークルから届けられた作品を玄関に飾ったり、中学生の差し入れた雑巾やパズル等を活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏休みに中学生のボランティアを受け入れ認知症の理解を深めてもらっていたが、今年度もコロナ等感染症の為ホームへの受け入れはできなかった。中学生やボランティアの方より雑巾などの提供を受けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より事業所内にて、利用者様家族・民生委員・行政の方に参加して頂き、近況報告や意見交換を行いサービス向上に活かしている。	昨年対面による会議を2ヶ月に一度、開催している。参加者は、民生委員・介護保険課・包括支援センター・家族等である。出された意見は、畑での野菜作りなどに反映し、利用者の食材としても活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況・認定調査他など必要に応じて連絡を取っている。	法人の本部と役割を分担して連携している。事業所では管理者が窓口となり、メール・FAX等により、日常的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1度行い、基本的な禁止の対象は理解し、疑問などは話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	管理者が中心となり、2ヶ月に一度、身体拘束適正委員会を開催して疑問等を出し合っている。とりわけ、言葉かけについては活発な意見交換がされている。また、月に一度のカンファレンスの場でも研修し、拘束が必要ないケアにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について事業所内で勉強会をとうし職員の理解を深め知識の向上をはかる。職員間でお互いのケアの仕方に注意を払い防止に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で研修を行い職員間で情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、契約時にはゆっくり時間をかけ、家族が質問しやすいように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や来所の時に家族の方と利用者様の状況報告をしたりし会話の中で意見や要望などを聞くように心掛ける。	日々の食事やレクリエーションの時間に一人ひとりの利用者の話を聴き、食事の献立等に反映している。家族には面会時などに意見を聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	二か月に一度ミーティングを開き意見や提案を聞き反映させている	毎月のカンファレンス及び日々のケアを通して、職員の意見を聴いている。出された意見は、勤務体制の見直しや物品の購入等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回の管理者会議で状況を報告し整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保しやすいように勤務調整などで協力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの管理者が定期的に集まりそれぞれの活動報告をして、サービスの質の向上に取り組んでいる。コロナ禍以降は開催出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の多い初期には細かな配慮を心がけ不安なく過ごせるよう寄り添い信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では特に状況を細かく報告して信頼関係づくりに努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望するサービスを見極め、相談しながらできる限りの対応に努める努力を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力が活かせるように過度の介護をせず家事などのできることは職員と一緒にしていただくようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	制限は有るが、直接面会できるようになり家族との時間を大切にいただけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出はできていないが、馴染みの方との面会も直接出来るようになった。	知人や地域の方の面会時には、関係の継続が出来るよう声かけをしている。また、家族からの届け物や電話の取次ぎ等、丁寧に対応している。また、全ての家族に事業所から年賀状を出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人一人の個性を把握し利用者が孤立しないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に訪問しやすい環境を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意思を尊重してできるだけ本人の希望を一番に考えるようにしている	食事やレクリエーションの時間に、一人ひとりに寄り添ってその思いや意向を聴き、食事のメニュー等に反映している。困難な場合は、家族との連携や過去の記録・利用者の表情等から判断し、本人本位となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴の聞き取りをしっかりと入居後に活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日ごろからしっかり様子観察して変化のあったときは申し送り、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでケアプランの見直しをして、家族の意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが作成した暫定プランを1～2ヶ月実施した後、毎月のカンファレンスで職員間で検討している。見直しは1年を基本としているが、状況に応じて柔軟に対応している。モニタリングは日々、細やかに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活やケアの様子が見えるような記入をし、職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活歴や家族の状況に合わせ一人ひとりのニーズに合った対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で安全で安心して暮らせるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族の希望を優先し適切な医療を受けられるように支援している	ユニットごとに毎月2回、協力医の訪問があるので、利用者の状況に応じた診察を随時、受けることができる。また、週に一度、訪問看護が入っており、医療面での安心感を利用者・家族にもたらしめている。多くの利用者が歯科の口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護で日常の様子を報告し相談など行う。必要があれば主治医に報告してもらい適切な指示を受けたり、受診に行く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	訪問看護や往診時にしっかり情報を伝え早期治療に努めている。入院中も訪問看護や往診時には情報提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要ない場合には本人・家族の希望を優先し主治医と話し合い納得のいく支援に取り組んでいる	利用開始時に事業所として、出来ること・出来ないことを説明している。重度化した場合、医師・家族・事業所と丁寧に話し合っている。食事や水分が自力で摂取出来なくなった場合は療養を望む家族が多いのが現状である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日ごろから様子観察をしっかりし変化に気づけるようにしている。急変や事故発生時に備えて応急手当や初期対応の研修を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜の想定で年二回避難訓練を行っている	利用者も参加してユニット合同で年に2回、夜間と昼間を想定した避難訓練を実施している。避難経路を廊下に掲示し、職員に徹底させている。備蓄として、水・スポーツドリンク・カセットコンロを備えている。	いつ起こるか分からない災害に備え、備蓄品の量と質の確認をお勧めします。また、訓練時には地域にも声をかけることや家族の参加も検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を重視した対応を心掛けている	日々、利用者一人ひとりの個性の把握に努め、部屋で過ごしたい人など、それぞれのしたいことが出来るような支援をしている。とりわけ、入浴やトイレの介助時にはプライバシーの確保が出来るよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ誘導や入浴などの都度希望を聞き自己決定ができるように働きかけている。レク活動も何がしたいかなど希望を聴き取り組んでいただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴を大切に押し付けにならないよう一人ひとりのペースに沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでいただいたり意思表示の困難な方には同じ服に偏らない配慮をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材で季節感を出したり好みを聞いたり、食べたい物を聞き献立に取り入れる。	職員が材料を購入し、交代で3食手作りしている。職員も利用者と一緒に和やかに食事している。ひな祭り等の行事食や、利用者と一緒に収穫した畑の野菜を食材とすることもある。テーブル拭き等を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量は体調を把握し摂取しやすいよう工夫をして提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできないところは介助し、入眠前には義歯の消毒を行っている。2月より訪問歯科にて口腔ケア等も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄を基本にしている	細やかな記録と的確な言葉かけにより、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりに応じた対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握して飲み物の工夫や薬の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴でゆっくりと湯船に浸かって頂き入浴後は保湿ケアにも努めている	週に2~3回、午後を中心に入浴している。入浴後に保湿クリームを塗布する等、入浴が快適なものとなるよう配慮している。シャワー浴の人には足湯をしている。嫌がる人には、時間をずらす等の工夫で清潔を保っている。冬季にはゆず湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず就寝まで思い思いの時間を過ごして頂き、気持ちよく休んで頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人の薬を把握しており疑問のある時は薬剤師に尋ね納得のいく服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの張り合いや生きがいにつながることを見極め支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度も外出は避けてホーム内で壁画や生け花などで季節を感じていただくように工夫した。	コロナ禍以前は外出に努めていたが、現在は玄関に花を生けたり、外での日光浴や体操・野菜の世話・敷地内の散歩等で外気に触れるよう工夫している。4月の花見は今年度も継続する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば代理で買い物をする支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望が叶うようできるだけ支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くようなものや障害になるものは除き季節感のあるもので工夫している	共用空間の温度や湿度の管理が適切で空気の淀みもない。廊下の天窓からは柔らかな日差しが届いている。利用者の椅子の足には使用済みのテニスボールを貼り、防音と床を守る工夫もみられる。壁には季節感のあるタペストリーや貼り絵・ひな人形等が飾られ、生活感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間など思い思いに過ごせる場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が居心地よく過ごせるよう、本人や家族と相談し使い慣れたものや好みのものなど置くなど工夫している	雑誌やテレビを持ち込み、得意だった編み物を楽しんでいる利用者もいて、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自由で安全に移動が出来るように障害になるものを置かないようにしている		